エコマーク ニュース

Eco Mark News

エコマークは(財)日本環境協会が自主的に運営している事業です。エコマークの活動予算は、すべて認定企業の皆様からのエコマーク使用料および商品認定申込者の皆様からの商品認定審査料でまかなわれています。「エコマークニュース」では、「エコマーク事業実施要領」に基づき、エコマーク事業に関する情報を提供しています。

2012.4.20 No.86

「エコマークコミュニケーションフォーラム」を開催しました

「エコマークアワード 2011」受賞者による記念撮影

2月2日、消費者、事業者等のステークホルダーが集うコミュニケーションの場として、「エコマークコミュニケーションフォーラム」を開催しました。

本イベントでは、「エコマークアワード 2011」の表彰式と受賞者による取り組み紹介のほか、慶應義塾大学環境情報学部教授の小林 光氏にご講演いただきました。

多くの皆様のご来場、誠にありがとうございました。

目 次 ・CONTENTS

特別報告

■「エコマークコミュニケーションフォーラム」開催 ……… 2

㊗認定商品のご紹介

■エコマーク認定の小売店舗が誕生 …………………………… 4
■BDレコーダーのエコマーク認定商品が登場 …………… 5

認定基準に関するお知らせ

■認定基準の制定等 ………………………………………… 6
■2012年以降に取り組む新商品類型の選定結果 ………… 7
■2年後に有効期限を迎える商品類型の延長措置 ………… 7

委員会報告

■運営委員会、基準審議委員会 ……………………………… 8

お知らせ

■パンフレット、カタログを作成しました …………………… 8

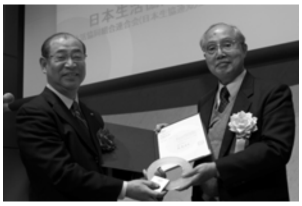
特別報告　「エコマークコミュニケーションフォーラム」開催

「エコマークアワード 2011」表彰式

フォーラムの前半では、「エコマークアワード 2011」の表彰式を行いました。今回が２回目となるエコマークアワードは、「エコマーク商品をはじめとする環境配慮型商品の製造・販売あるいは普及啓発を通じた、企業・団体の優れた取り組みを表彰する」ものです。

昨年の「エコマークアワード 2010」で金賞を受賞された株式会社エフピコより、受賞後１年間の取り組みなどについてご紹介いただいた後、本年度の各賞の表彰が行われました。また、すべてのエコマーク認定商品の中から特に環境性能や先進性などに優れた商品に贈られるプロダクト・オブ・ザ・イヤーの表彰も行われました。受賞団体の皆様、おめでとうございました。

各賞の受賞理由は、エコマーク事務局ホームページ（http://www.ecomark.jp/award/award_2011.html）をご参照ください。

金　賞	**日本生活協同組合連合会** 日本生活協同組合連合会（日本生協連）の エコマーク普及の取り組み 
銀　賞	**株式会社川島織物セルコン** インテリアからの環境配慮（低炭素社会と循環型社会の実現に向けて） **資源リサイクルセンター　株式会社松田商店** ペットボトルを日用品に ～日常に溶け込むリサイクル商品の開発と普及～ **東京海上日動火災保険株式会社** エコマーク商品の普及に向けた取り組み ～持続可能な社会の実現に向けて～
奨励賞	**株式会社損害保険ジャパン** エコマーク認定商品　自動車保険（ONE-step、SUP）で環境に貢献 ～SAVE　JAPANプロジェクト～の展開 **村田機械株式会社** ネットワークスタンバイ機能の実装と高速起動を実現した省電力型複合機 （スマート＆ECOシリーズ）《MFX-2870》 **株式会社ルイ高** スポーツ分野へのエコマーク製品スタンダード化への挑戦
プロダクト・オブ・ザ・イヤー	**カシオ　データ　プロジェクター　スタンダードモデル（3000ルーメンモデル）** ［エコマーク認定番号：10 145 015］ カシオ計算機株式会社 **サーモス　ステンレスボトル** ［エコマーク認定番号：10 146 009］ サーモス株式会社

「エコマークアワード 2011」講評 ——選考委員長 平尾雅彦氏（東京大学大学院教授）

「エコマークアワード」においては、エコマークを使っていかに良いビジネスを立ち上げ、それが持続的な社会をつくるのにどのように貢献したか、という観点から評価、審査を行いました。

今回金賞を受賞された日本生活協同組合連合会は、消費者と一緒に環境に配慮した商品を開発し、社会に送り出し普及させる、という取り組みにおいてエコマークを利用し、さらにその活用を拡大している点が高く評価されました。

川島織物セルコンと村田機械は、資源を上手く循環させる商品の開発や仕組みの構築、環境配慮設計へのエコマーク認定基準の活用や製品利用時の工夫といった点が評価されました。松田商店は地元に密着し、子どもたちも含めリサイクルをする様子を見せながら、リサイクル商品をエコマークという形で表していることが評価されました。

これまでエコマーク認定商品は目に見える商品が中心でしたが、東京海上日動火災保険、損害保険ジャパン、ルイ高のように、サービス分野やスポーツを楽しむ場でエコマーク認定商品の普及に取り組んでいる、ということをありがたく思いながら表彰いたしました。

〈プロダクト・オブ・ザ・イヤー受賞商品について〉

カシオ計算機のプロジェクタは、従来のプロジェクタで使われていた水銀ランプを使わずLEDを採用しており、今まさに誰もが取り組まなければならない省エネにおいて、先進的な製品を社会に送り出したということで表彰しました。

サーモスのステンレスボトルは、環境に配慮しエコマークの基準を満たした優れた商品であるだけでなく、持って歩くボトルとして消費者の生活行動に大きな影響を与えたということが、エコマークの価値を高めたと考えています。

エコマークの認定を取得した商品の中から選ばれたという非常に高いレベルでの表彰であり、こうした商品をさらに社会に広めていただきたい、また、私たちはそういう商品を選ぶ消費者になっていきたいと思います。

受賞事例紹介「エコマークアワード 2010 金賞受賞後１年を振り返って」——株式会社エフピコ

「エコマークアワード 2010」の金賞受賞において評価されたエフピコ方式のリサイクル「トレーtoトレー」の取り組み、受賞後のPR活動および今後の展開などについてご紹介いただきました。

講演「消費者とメーカーの協力が加速するグリーン成長」
——慶應義塾大学環境情報学部教授（前・環境事務次官） 小林　光氏

世界の環境市場における日本の強みを生かして新ルールを構想・提案することの重要性、「協力」をキーワードにしたエコビジネスの展開、顧客とサプライヤーの協力によるエコ製品・エコサービスの進化などについてお話しいただきました。

慶應義塾大学教授
小林　光氏

エコマーク 2011 年度年次活動報告

プログラムの最後に、エコマーク事務局長 宇野 治より 2011 年度の活動報告を行いました。2011 年度に制定された４分野の認定基準を紹介するとともに、今後の活動展開について展望しました。

◆金賞および銀賞受賞団体のプレゼンテーションならびに講演の資料は、ホームページにてご覧いただけます。
(http://www.ecomark.jp/forum2011.html)

㊊認定商品のご紹介

エコマーク認定の小売店舗が誕生
——店舗における環境負荷の低減と消費者の環境配慮行動を促進

消費者の生活に密接に関わる存在である小売店舗においては、省エネルギー、廃棄物削減、物流効率の向上など、店舗運営に伴って発生する環境負荷の低減に向けたさまざまな取り組みが行われています。また、環境配慮商品の販売、容器包装の削減、資源回収・リサイクルなど消費者と一体となった活動の推進、消費者の環境意識の向上という面でも、小売店舗は重要な役割を担っています。

このような観点から、エコマークでは2011年11月に新規商品類型No.501「小売店舗Version1」の認定基準を制定し、店舗面積が1,000m^2を超える大規模小売店舗を対象に認定を行うこととしました。これを受け2012年1月に、生活協同組合さいたまコープのコープ二ッ宮（ふたつみや）店（認定番号11 501 001）、ユニー株式会社のアピタ千代田橋店（認定番号11 501 002）の2店舗がエコマークの認定を取得しました。

■店舗におけるCO_2排出量ゼロを実現
——さいたまコープ・コープ二ッ宮店

さいたまコープは、同生協が加盟するコープネット事業連合とともに、「低炭素社会」「自然共生社会」「循環型社会」の実現を柱に環境への取り組みを進めています。コープネット事業連合では、日本生活協同組合連合会（日本生協連）とともに、環境に配慮した商品の販売、普及に取り組んでおり、生協の環境配慮商品の拡充においてエコマークを重視していることなどを踏まえ、さいたまコープでは、「小売店舗」のエコマーク認定にチャレンジすることとなりました。

さいたまコープ コープ二ッ宮店の環境配慮商品販売コーナー

今回認定を取得したコープ二ッ宮店（埼玉県上尾市）は、日本生協連の「エコストア・コンセプト」に基づくエコストア第1号店であり、照明数の削減、LED照明の設置などの省エネ対策により、従来型の店舗に比べ消費電力を20％以上削減しています。こうした取り組みに加えカーボン・オフセットを活用することにより、「CO_2排出ゼロ店舗」を実現しています。

店舗で発生する食品加工残さや期限切れの食品に関しては、埼玉県などにより運営されている「彩の国資源循環工場」に委託して堆肥化し、地域の農家で農産物の生産に活用されています。これらの農産物は同店でも取り扱っており、2008年度からは、この堆肥を使用して生産した米を「彩のかがやきエコ循環米」として販売しています。また、店頭での飲料容器、食品トレイ、卵容器などの資源回収・リサイクルにも力を入れています。

同店では、環境配慮商品に関する啓発や販売促進に努めるとともに、農産物等のバラ売りの積極展開、マイバッグ持参の呼びかけやレジ袋の有料販売によるレジ袋の削減、白色発泡トレイの減量化などにより、商品の販売に伴う環境負荷の低減に取り組んでいます。また、店舗において子どもたちが環境に配慮した商品について学ぶ「エコたんけん隊」の実施などを通じて、消費者の環境意識の向上を図っています。

さいたまコープでは、今後も消費者とともに環境活動を進め、店舗における環境負荷低減と消費行動における環境配慮を促進していく考えです。

◆さいたまコープのウェブサイト
http://saitama.coopnet.or. jp/

■レジ袋を使用しない消費者が約９割
——ユニー株式会社・アピタ千代田橋店

ユニー(株)は、顧客、生産者、取引先などの関係者とともに、人間が自然と共存する社会を構築していくことを目指し、原料調達から生産、流通、使用に至るまでのプロセスを通じて環境負荷の少ない商品の提供と普及に取り組んでいます。また、店舗における環境負荷の低減や環境啓発活動にも力を入れてきました。こうした取り組みを踏まえ、アピタ千代田橋店（愛知県名古屋市）がエコマークの認定を取得しました。

同店では、レジ袋の有料化やポスターによる啓発など、レジ袋削減に向けた積極的な取り組みを進めており、レジ袋辞退率は89.4％に達しています（2010年12月～2011年11月実績)。また、卵やフルーツパックの容器へのバイオマスプラスチックの採用、バラ売り陳列の推進、トレイレス化の試みなどを通じて、商品販売に伴う容器包装の削減を図っています。

店舗で発生した野菜や魚類の生ごみなどの食品残さは、JAグループの協力を得て堆肥化が行われており、これを使用して栽培された野菜を同店で販売することにより、食品リサイクルによる資源循環を実現しています。また、同店のリサイクルステーションには数多くのボックスが並んでおり、各種容器包装のほか小型家電、古本などの回収も行っています。店頭で回収した牛乳パックはPBブランドのトイレットペーパーに再生され、消費者に販売しています。

このほか、地域のNPOや企業、自治体などとの連携による環境学習会、消費者交流会の開催、子どもたちが環境配慮商品や店舗での環境活動について学ぶ「お店探検隊」などを通じて、消費者の環境意識の向上に努めています。

ユニー(株) では、持続可能な社会を構築していくために、今後も地域の消費者と一体となった環境活動を推進し、店舗の運営に関わる環境負荷の低減、環境配慮商品の普及等を図っていく考えです。

◆ユニー(株) のウェブサイト
http://www.uny.co. jp/

ユニー(株)・アピタ千代田橋店のリサイクルステーション（上)、消費者交流会の様子（下）

BD（ブルーレイディスク）レコーダーのエコマーク認定商品が登場

BD/DVDレコーダー・プレーヤーは、国内で年間500万台以上販売されており、一般世帯への普及率72.8％、1世帯あたり1.33台保有しているといわれるほど身近なものになっていますが、その環境性能について気にする方は少ないかもしれません。実は、年々高機能化していることもあり、家庭での待機電力としてはガス温水機器、冷暖房兼用エアコン、電話機に次いで高い、ということをご存知でしたか？

エコマークでは、日中韓3カ国の環境ラベル間での相互認証（基準の共通化）の実施を目指して昨年春から基準策定を進め、本年1月15日に新規商品類型No. 149「BD/DVDレコーダー・プレーヤーVersion 1」の認定基準を制定しました。そしてこのほど、7機種のBDレコーダーのエコマーク認定商品（いずれもパナソニック株式会社AVCネットワークス社）が初めて誕生しました（表)。

「BD/DVDレコーダー・プレーヤーVersion 1」認定商品一覧

会社名	認定番号	商品ブランド名	型式・品番等
パナソニック株式会社AVCネットワークス社	11 149 001	HDD搭載ハイビジョンブルーレイディスクレコーダー（スマートディーガ）	DMR-BZT920
	11 149 002		DMR-BZT820
	11 149 003		DMR-BZT725
	11 149 004		DMR-BZT720
	11 149 005	HDD搭載ハイビジョンブルーレイディスクレコーダー（ブルーレイディーガ）	DMR-BWT620
	11 149 006		DMR-BWT520
	11 149 007		DMR-BRT220

※DMR-BZT725は販売ルート限定の専用商品です。

BDレコーダーは、製品ライフサイクルのうち、機器の消費電力による使用時の環境負荷が最も大きいことがわかっています。このためエコマークでは、使用時の消費電力について、日本国内で2010年1月以降に販売された機種のうち、上位25％程度しか適合できない厳しい基準を設定しています。また、待機電力につい

ても欧州の規制に適合するとともに、取扱説明書やカタログ等で省エネにつながる使い方を消費者にも情報提供しています。

消費電力以外にも、BDレコーダーの製品ライフサイクル全体を考え、総合的に環境負荷を低減するための基準が設定されています。製品本体の軽量化（資源の節約）を促す基準項目や、解体・リサイクルし易い設計、包装材料の省資源化、製品の廃棄方法の情報提供、および配慮事項として希少金属類（レアメタル）の使用削減にも着目して基準を設けています。

有害物質に関しては、製品に使用される重金属類について欧州のRoHS指令と同等の厳しい基準値を設け、筐体プラスチック部品についても臭素系難燃剤等の使用制限を設けています。

今回認定されたパナソニック株式会社の製品は、優れたエコ設計により業界最小*1の年間消費電力量*2 18.9Kwhを実現（BRT220）しています。また、リモコンに加え本体にも「エコ待機ボタン」を搭載し、エコ待機時の消費電力は約0.02Wを実現（エコ待機「モード2」）しています。薄型で奥行きもコンパクトなデザインを実現し、省スペースで設置することが可能で高機能と高環境性能を追求した製品です。

エコマーク認定のパナソニック(株)「DMR-BZT920」

購入後、平均6年間使用されるというBD / DVDレコーダー・プレーヤー。皆さんもエコマークを目印に選んでみませんか？

＊1 2012年2月7日現在。ブルーレイディスクレコーダーとして。
＊2 表示値はJEITA基準による計算式に基づき算出した参考値です。

◆パナソニック(株) BDレコーダーのウェブサイト
http://panasonic.jp/diga/

認定基準に関するお知らせ

認定基準の制定

以下の認定基準が制定されましたので、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	制定日	有効期限
138	建築製品（材料系の資材）Version 1.6 分類D-1 ～耐火鋼材～（適用範囲の拡大）	2012年1月15日	2017年12月31日
138	建築製品（材料系の資材）Version 1.6 分類D-2 ～デッキプレート～（適用範囲の拡大）	2012年1月15日	2017年12月31日
149	BD/DVDレコーダー・プレーヤー Version 1.0	2012年1月15日	2019年 1月31日
150	電球形LEDランプ（A形）Version 1.0	2012年4月 1日	2019年 3月31日

◆認定基準は（http://www.ecomark.jp/nintei.html）をご覧ください。

認定基準案の公表およびパブリックコメントの受付

以下の認定基準案の公表およびパブリックコメントの受付について、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	公表期間（30日間）
123	建築製品（内装工事関係用資材）Version 2.10 分類C-7 ～タイルカーペット～	受付を終了しました
新規	カーシェアリング Version 1.0	2012年4月5日～2012年5月4日

◆認定基準案、パブリックコメントの受付については（http://www.ecomark.jp/nintei2.html）をご覧ください。

認定基準の改定

以下の認定基準の部分的な改定の実施について、お知らせいたします。（Version の No. は改定前のもの）

<table>
<tr><th>類型番号</th><th>商品類型名</th><th>改定のポイント</th><th>改定日</th></tr>
<tr><td>128</td><td>日用品 Version 1.14</td><td>認定対象とする商品の整理</td><td>2012年２月１日</td></tr>
<tr><td>123</td><td>建築製品（内装工事関係用資材）Version 2.9</td><td rowspan="4">・HFC の対象物質の修正
・トルエン等 4VOC 基準の設定
・住宅用浴室ユニットの保温性能の修正（JIS との整合）
・再生材料の対象の追加　　など</td><td rowspan="5">2012年４月１日</td></tr>
<tr><td>137</td><td>建築製品（外装・外構工事関係用資材）Version 1.5</td></tr>
<tr><td>138</td><td>建築製品（材料系の資材）Version 1.7</td></tr>
<tr><td>139</td><td>建築製品（設備）Version 1.3</td></tr>
<tr><td>145</td><td>プロジェクタ Version 1.1</td><td>改正 RoHS 指令への準拠に関する記述の修正</td></tr>
</table>

◆改定点の詳細については（http://www.ecomark.jp/kijyun_archives.html）をご覧ください。

2012 年度以降に取り組む新規商品類型の選定結果について

2012 年度以降に取り組む新規商品類型について、昨年 10 月１日～31 日に新規商品類型提案の募集を行いました。寄せられた提案ならびに事務局からの提案を踏まえ審議を行った結果、以下の７件について、2012 年度以降に着手する新規商品類型として選定、または新規商品類型化の候補としてさらに継続検討することとなりました。

●新規商品類型として以下の２件を選定しました。（五十音順）

・「環境指向型高機能浄化槽」（3月 15 日付で、「浄化槽」基準策定委員会設置の手続きを公表しました）

・「テレビ」（3月 21 日付で、「テレビ」基準策定委員会設置の手続きを公表しました）

●新規商品類型化の候補として以下の５件を継続検討する案件としました。（五十音順）

・「軽量化・薄肉化・減容化した包装米飯容器」

・「港湾用ゴム資材」（既存商品類型の部分的な改定を検討）

・「太陽熱利用システム」

・「防水シート」（既存商品類型に追加を検討）

・「リサイクルシステムを有するベビーカー、チャイルドシート、ベビーラック」

２年後に有効期限を迎える商品類型の延長措置ついて

2015 年２月までに有効期限を迎える商品類型の見直し方針について、ガイドラインに従って昨年 12 月に意見募集を行いました。事務局案に対して３件の意見が寄せられましたが、見直し計画に関する事項ではなく、部分改定の内容に関わる意見でしたので、当初案どおり以下の商品類型の有効期限延長を決定しました（右表）。

なお、対象商品類型の部分改定については、2012 年４月以降に関係者と協議の上、進めることとします。

有効期限を延長する商品類型

類型番号	商品類型名	見直し後の有効期限日
117	複写機 Version 2	2017 年４月 30 日
122	プリンタ Version 2	2017 年４月 30 日
142	インクカートリッジ Version 1	2020 年２月 28 日

委員会報告

運営委員会（第28回）

第28回運営委員会が2012年3月13日に開催されました。議事内容は以下のとおりです。

〈議事内容〉

1. 2011年度（平成23年度）事業の実施状況について
2. 2012年度（平成24年度）エコマーク事業計画および予算（案）について
3. エコマーク事業実施要領の改定について
4. エコマーク料金制度等の一部見直しについて

◆資料等詳細は（http://www.ecomark.jp/unei_info.html#28）をご覧下さい。

基準審議委員会（第7回、第8回）

第7回基準審議委員会が2012年1月23日に、第8回基準審議委員会が3月23日に開催されました。審議事項は以下のとおりです。

〈審議事項〉

1. エコマーク商品類型（認定基準）案について（P.6参照）
2. エコマーク商品類型（認定基準）の部分的な改定について（P.7参照）
3. エコマーク共通規定の今後の方向性について

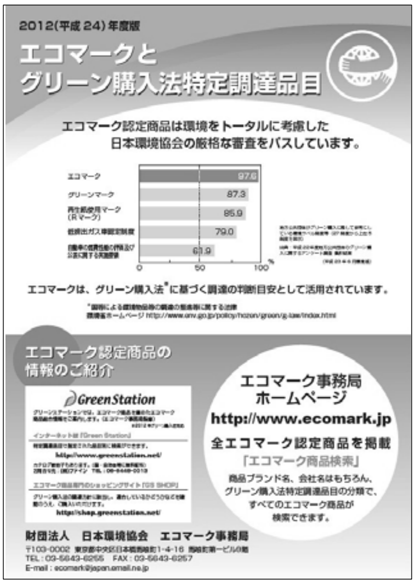
◆資料等詳細は（http://www.ecomark.jp/kijyun_archives.html）をご覧下さい。

お知らせ

エコマーク関係のパンフレット、カタログを作成しました

エコマークとグリーン購入法特定調達品目の対応関係をまとめたパンフレット「2012年度版エコマークとグリーン購入法特定調達品目」を作成しました。エコマーク事務局ホームページからダウンロードいただけますので、ご活用ください。（http://www.ecomark.jp/pdf/g_eco12.pdf）

また、エコマーク認定商品を掲載した「グリーンステーションカタログ2012年度版」が完成しました。本カタログについては(株)ファイン（TEL：06-6448-0004）までお問い合わせください。インターネット版は常時最新情報に更新されますので、そちらもご活用ください。（http://www.greenstation.net）



「2012年度版エコマークとグリーン購入法特定調達品目」パンフレット

エコマークニュース 第86号　2012年4月20日発行

編集・発行／財団法人 日本環境協会　エコマーク事務局
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビル9F
TEL：基準・認証課　03-5643-6253　FAX：03-5643-6257（各課共通）
総務・契約監査課　03-5643-6255
普及・国際協力課　03-5643-6255
Homepage：http://www.ecomark.jp　E-mail：ecomark@japan.email.ne.jp

エコマークは（財）日本環境協会の登録商標です。